

東日本
大震災 14 年

復興の実相 ③

「最先端の浜」定着手探り

金属加工や機械製造の町工場が多く立地する福島県南相馬市。その一つ、板金加工会社「昭陽製作所」ではアルミ板を加工し、宇宙ロケットのエンジン制御部の模型部品が製造されていた。ロケットは形状が特殊で精密性が求められる部品が多いが、同市には高い技術を持った企業が多い。同社にも、市内に進出したロケット開発会社から製作の依頼が入った。

機械部品の製造などを受注してきた昭陽製作所は、東京電力福島第一原発の事故後、取引先が撤退した影響で売り上げが約6割に減った。今のところ、ロケット関連の売り上げは全体の

1割未満だ。発注元の企業

は、開発段階の小型ロケットを将来的に量産化し、人工衛星を宇宙に運ぶプロジェクトを進めている。伊藤充子社長(53)は「原発事故から14年がたっても経営環境は厳しい。業績回復のためには、新たな産業に期待するしかない」と話す。



ロケットの模型部品を製造する昭陽製作所の社員(1月22日、福島県南相馬市で)